

下回ると、平成5（1993）年に1.46と1.50を割り込んだ。その後も低下傾向は続き、17（2005）年には1.26と過去最低を記録したが、26（2014）年は1.42となっている。

4 高齢化の社会保障給付費に対する影響

(1) 過去最高となった社会保障給付費

国立社会保障・人口問題研究所「平成25年度社会保障費用統計」により、社会保障給付費（年金・医療・福祉その他を合わせた額）全体についてみると、平成25（2013）年度は110兆6,566億円となり過去最高の水準となった。また、国民所得に占める割合は30.56%（前年比0.41ポイント減）となった。（図1-1-11）。

(2) 高齢者関係給付費は引き続き増加

社会保障給付費のうち、高齢者関係給付費（国立社会保障・人口問題研究所の定義におい

て、年金保険給付費、高齢者医療給付費、老人福祉サービス給付費及び高年齢雇用継続給付費を合わせた額）についてみると、平成25（2013）年度は75兆6,422億円となり、前年度の74兆1,004億円から1兆5,418億円増加した。一方、社会保障給付費に占める割合は68.4%で、前年度から0.4ポイント増加となっている。

5 高齢化の国際的動向

(1) 今後半世紀で世界の高齢化は急速に進展

平成27（2015）年の世界の総人口は73億4,947万人であり、72（2060）年には101億8,429万人になると見込まれている。

総人口に占める65歳以上の人の割合（高齢化率）は、昭和25（1950）年の5.1%から平成27（2015）年には8.3%に上昇しているが、さらに72（2060）年には18.1%にまで上昇するものと見込まれており、今後半世紀で高齢化が急速に進展することになる（表1-1-12）。

図1-1-11 社会保障給付費の推移

